

横浜F・マリノスのサッカー教室に100人 プロ指導者らとの交流深める

7月24日、山田町民総合運動公園ラグビー・サッカー場で横浜F・マリノスの「ふれあいサッカー教室」が開かれ、本町と近隣市町村の小学生約100人が参加しました。震災復興支援の一環で平成24年に始まった同教室。2年ぶり9回目となるこの日は、元日本代表で同団体アンバサダーの波戸康弘さん(46)やサッカースクールのコーチらが、声掛けの重要性やパスの出し方などを指導しました。参加した子どもたちは、プロ指導者らと交流を深めながら、楽しそうにボールを追いかけていました。



長崎街道沿いに花の苗植え 復興後の町並みに彩添える

地域コミュニティの復興を目的に活動する「やまだわんぴいす」(川村芳宏代表)が、8月5日、長崎街道の歩道沿いに花の苗植えを行いました。地域の世代間交流と生きがいづくりのきっかけに同団体が企画したもので、参加したのは地域住民や山田高校の生徒ら約30人。約30畝ほどにわたり耕された花壇に、マリーゴールドやサルビア、コスモスを計400株植え付け、復興後の町並みに彩を添えました。上林美玖さん(山田高1年)は「町が明るくなるといいな」と開花が待ち遠しい様子でした。

鯨館「ナイトミュージアム」に450人 薄暗い館内演出でクジラの骨探索

照明を落とした薄暗い館内を探索する「サマーナイトミュージアム」が、8月6日と7日の夜、鯨と海の科学館(湊敏館長)で開かれました。夏休み企画として行われたこのイベントには2日間で親子連れなど約450人が来場し、数々のアトラクションを楽しみました。懐中電灯を手にマッコウクジラの骨を探し歩き、クイズ形式で部位の名称を当てる「ほね・ほねラリー」には多くの子どもたちが挑戦。普段とは一風変わった館内演出に気持ちを高ぶらせながら、次々とお目当ての骨を見つけっていました。



不来方高校「ふれあいコンサート」 美しく力強い歌声が会場を包む

音楽を通じた交流を——。県立不来方高校(清川義彦校長、生徒823人)音楽部の「ふれあいコンサート」が、8月7日に町中央公民館で開かれました。同コンサートは被災地を励まそうと震災直後から行われ、今回で10回目の来町公演。ステージでは「さんさ踊唄」や懐かしのCM曲メドレーなど16曲が披露され、美しく力強い歌声が会場を包み込みました。観客からは時折歌詞を口ずさんだり、リズムに手拍子で応えたりするなど、脈々と引き継がれる励ましの歌声に聞き入っていました。



町のわたり

今月の題字 木下 ^{みどり}翠さん（山田小6年）



「山田パドルフェス」に600人 マリンスポーツで夏を満喫

夏の恒例行事「山田パドルフェス2022」が、7月24日、浦の浜海水浴場で行われ、会場を訪れた約600人の親子連れや若者らが、シーカヤックやSUP(スタンドアップパドルボード)などのマリンスポーツを楽しみました。中でも人気を集めていたのが、水しぶきを上げて勢いよく海上を進む迫力満点のバナナボート。バランスを崩すと海に落ちてしまうドキドキ感が醍醐味で、参加者からは何度も歓声が上がっていました。矢巾町から家族で訪れていた小笠原充咲さん(8)は「また遊びに来たいです」と山田での夏を満喫した様子でした。



長崎の舟田スミさんが100歳に 「好き嫌いしない」が長寿の秘訣

7月28日に舟田スミさん(長崎)が100歳の誕生日を迎えました。8月1日には佐藤信逸町長が自宅を訪れ「健康に気を使い、長生きしてください」と賞状を手渡しました。9人きょうだいの末っ子として生まれた舟田さんは18歳で上京し、結婚後は満州鉄道で働いていた夫と一緒に旧満州へ移住。「当時は戦時中で子育てをしながら夫を支えるのは大変でした」と当時を振り返りました。長寿の秘訣は、食べ物の好き嫌いをしないこと。「おかげさまで一度も病気をしたことがないですよ」とはつつとした表情を浮かべていました。

